

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	い〜まCrea大治 I		
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～ R7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感をもって通所し、ご家族にも満足していただいている。	子どもの変化や支援に関することに対しての情報共有の機会があり、職員が共通の認識を持って支援を提供できるよう意識している。子どもご家族も安心感を持ってもらえるよう、親身になって話を聞き助言することを心掛けている。	新年度に入ると新しいメンバー構成になるため、毎日のミーティングでその日の支援内容の確認や現場の流れの確認を行っていく。
2	子どもの活動スペースが確保され、清潔に心地よく過ごせる環境。	子どもの特性や状況に合わせ、個別指導室やパーテーションを使用し支援をしている。毎日必ず清掃を実施し、定期的にエアコンやサーキュレーターなどの清掃も行っている。	子どもの成長や変化により施設内の環境配置を変え、最適な環境で支援を行うことができるよう検討をしていく。
3	個別支援計画に沿った専門性のある支援の提供。	モニタリング時にご家族の意向を聞いた上で、将来に向け必要な力を検討し個別支援計画を作成している。子どもの様子に変化があった際は、ご家族と情報共有をしながら支援内容を変更している。	一人ひとりに合った支援が提供できるよう日々の記録を基に、支援内容の検討や改善をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちの避難訓練等への参加意識の低下。	月に一回訓練を実施しているが、災害ごとに訓練の内容が変わらないため参加意識の低下がみられる。	緊張感をもった環境の中で訓練ができるよういつもと違う場面で訓練を行っていく。長期休み等で安全な避難経路の確認を行っているため、日頃の訓練の中で復習を行っていく。
2	子育てやご家族に対する助言等を行う機会が少ない。	改定後のモニタリング面談時に家族支援加算等の説明はしているが、今まで実施例がない。	モニタリング面談時に毎回お伝えしていく。また電話や送迎時等ご家族と会話をする場面で必要に応じて、家族支援の機会があることを再度伝えることで気軽に相談できる環境をつくっていく。
3	事業所の活動や取り組み内容について発信力が弱い。	日誌で活動や取り組み内容をお伝えしているが、簡易的な内容に留まってしまっている。	取り組み中の様子の変化や頑張っていたことなど口頭でもお伝えしていく。